

自然体験がつくる 人の大脳

千葉県少年自然の家には自然が溢れています。自然体験と子どもの心の成長について千葉県立中央博物館副館長の中村俊彦先生にお話をしました。



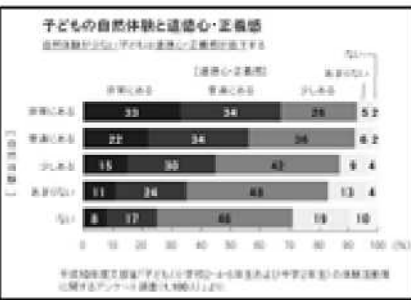
自然体験が少なくなると道徳心・正義感が低下する。これは、平成10年文部省の子どもの体験に関する調査結果である。近年の少年犯罪の増加や多動性にキレる、引きこもるといった子どもの心の問題は異常である。大人にとっては、あふれるモノと情報いっぱいの便利な文明社会が、子どもにとっては心を蝕む大きなストレス社会となっているのである。

最近の脳科学の発達は、心の問題と脳の問題との因果関係を明らかにしつつある。脳の機能は神経細胞の量と連結のネットワークが大きく影響するが、人の大脳の細胞密度は生まれたときが最大であり、また細胞の連結数は3歳前後が最大である。その後は神経細胞の量および連結数とも減少してしまうのである。したがって、幼児期の体験と五感刺激は、ヒトとし

ての神経回路の構造決定に大きく影響する。まさに「三つ子のたましい百まで」である。

そもそもヒトは、自然の中で自分の資源・環境にかかわる情報をよりの確に得、またこれに俊敏に対応する機能を発達させ進化してきた動物である。したがって、人の大脳についても自然とのより合理的なかわりの必要性から現在の状態が出来上がったと考えられる。「個体発生は系統発生を繰り返す」これは、有名な動物学者ヘッケルの言葉であるが、人の成長過程での自然体験の減少・欠落は、脳神経回路の未発達化、すなわち大脳の動物化が想定されるのである。

子どもは本来、自然の中での生活・体験を通じて自然観や生命観、また人と人のかかわりの術を学ぶ。自然・生命の体感・体験のできる空間、時間、そして仲間の確保は、子どもにとっては人としての大脳をつくる大前提であり、決してオマケではないのである。自然体験・生活体験が希薄ななか、毎日がゲームと仮想映像だらけの子ども達が、人としての感性・理性が欠落し、動物本能的行動が増大するのは当然のことかもしれない。さらには環境を汚染する様々な有害物質が脳を混乱させる状況もわかってきた。子ども達にそんな環境を強いる我々大人の責任は大きい。



主報告 ファミリーキャンプ おいしい 長柄産イチジク狩りとジャム作り

9月のファミリーキャンプは、長柄町の特産「イチジク」をテーマに13家族(40名)と3名のボランティアが集いました。心配していた天気にも恵まれ初日がスタートしました。始めに家族同士の親睦を深めるきっかけとして交流ゲームをしたり、「テレビに出たことがある」「ペットを飼ったことがある」といったインタビューを家族同士でしあったりしました。

午後には、2グループに分かれ、「イチジク狩り」と「アニマルハンティング」という自然の家の田んぼ周辺を散策しながらクイズに答えるゲームを交互に行いました。イチジク狩りは、長柄町イチジク生産組合長の風戸さんの畑へ狩りに向かいました。参加



者のほとんどの方が、木になっているイチジクを見ることやそれを収穫することは初めてということでした。今の時期のイチジクは、地面に近い位置に実がなっているため、大人も子どもも腰かがめて赤く色づいたイチジクを熱心に探していました。収穫後、冷えたイチジクと手作りジャムの試食があり、気が付くとみんなペロリと平らげていました。

翌日は、地元の特産物を使って生産物加工を行っている「長柄さくらの郷」のスタッフの方々にご指導いただき、イチジクジャムを作りました。みんなでイチジクを細かく刻み、煮込み、瓶詰めしてラベルを貼り、オリジナルイチジクジャムが完成しました。

ジャムと一緒にお土産のイチジクを持ち帰り、みなさん大満足のファミリーキャンプとなりました。



千葉県少年自然の家オーブンダー

秋のわいわいフェスティバル



食欲、運動、文化の秋。ワクワクする季節がやってきました。今年は昨年より内容をボリュームアップして、歌えやおどれや味わえやと、楽しいイベントいっぱいで開催します。子どもも大人も、おじいちゃんもおばあちゃんも一緒に、千葉県少年自然の家ならではの祭りにおこし下さい！



みんなの掲示板
10月29日(日)
 10:00~15:00

申し込み不要、雨天決行！
 みんなで楽しくおいでくださいね！
 千葉県少年自然の家に集合！
 詳しくはチラシまたはホームページをご覧ください